

「未来デザインプログラム」

基本計画

1 目的

企業で働く方や大学の研究者の方など、社会で活躍していらっしゃる方との対話を通して、自身の社会に関する認識を更新し、自分が将来どのような人間として、何をして社会と関わっていくのかについて考えを深める契機とする。

2 対象生徒

1年生普通科全員（203名）

3 実施内容

企業や大学等を訪問し、従業員の方や大学関係者の方から企業概要や業務内容、働くことの意義や責任、社会に貢献する志等について、お話をいただいたり質疑応答を含めた参加生徒との対話をしたりすることを中心とする取組を行う。事前・事後にも指導や学習活動を行い、生徒の中での将来像の深まりを促すようにする。

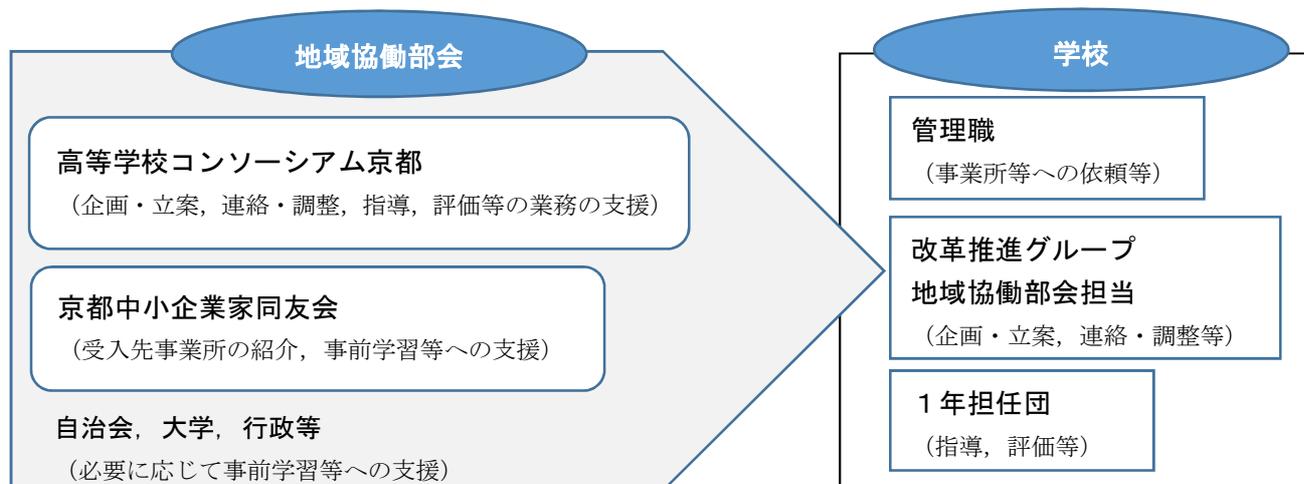
- (1) 企業・大学訪問では、業務の体験、講義、ワークショップ、ディスカッションを行う。
- (2) 訪問する人数は5名程度の少人数を基本とする。
- (3) 事前学習は、講演、訪問先の調査などを行う。
- (4) 事前指導は、マナー指導などを行う。
- (5) 事後学習は、振り返り、発表などを行う。
- (6) 生徒による自己評価は、目的の達成度を評価する。（訪問先にも送付する）
- (7) 訪問先へのアンケートや聞き取りは、取組内容や生徒の状況について評価をしていただく。
- (8) 教職員による評価は、取組内容や生徒の状況（訪問先の状況も含む）について評価する。

4 基本的な実施スケジュール

- 6月 協力母体への挨拶（高等学校コンソーシアム京都・中小企業家同友会・京都市わかもの就職支援センター）
- 7月 訪問先の検討（下旬までに）
- 8月 大学・研究機関の訪問先決定、中小企業家同友会協力事業所決定、学校独自開拓協力企業決定
- 9・10・11月 訪問先との日時・内容等の調整（遅くとも11月中旬までに）
活動のオリエンテーション、訪問先決定
社会で活躍されている方による講話
- 12月上旬 事前学習
中旬 訪問実施
- 1月 事後学習、生徒による自己評価、訪問先へのアンケートや聞き取り、教職員による評価

5 実施体制

学校運営協議会「地域協働部会」がサポートする取組として、次の体制で実施する。



この他、令和4年度については京都市管轄の「京都市わかもの就職支援センター」との連携も行う。

6 実施項目および担当者

- (1) 訪問先への受入依頼（管理職）※受入先の一部は、地域協働部会や京都市わかもの就職支援センターからご紹介
- (2) 訪問先への趣旨説明、日程・内容調整（改革推進グループ担当者、高校コンソーシアム京都担当者、1年担任団）
- (3) 実施要項作成（改革推進グループ担当者、高校コンソーシアム京都担当者）
- (4) 訪問先希望調査・人数調整（1年担任団）
- (5) 事前学習、事前指導（1年担任団）
- (6) 企業・大学・研究機関・行政機関等訪問、引率（1年担任団、改革推進グループ、高校コンソーシアム京都担当者）※事前に引率者と訪問先の打ち合わせも実施予定です。（オンラインを想定）
- (7) 事後学習、生徒による自己評価（1年担任団）
- (8) 訪問先へのアンケートや聞き取り（改革推進グループ担当者、高校コンソーシアム京都担当者）
- (9) 教職員による評価（改革推進グループ担当者、高校コンソーシアム京都担当者、1年担任団）
- (10) 改善・充実の方策検討（改革推進グループ担当者、高校コンソーシアム京都担当者、1年担任団）

7 その他

改革推進グループと1年担任団が目的意識を共有しながら事前学習や事後学習にあたる。

令和4年度 「未来デザインプログラム」

実施計画

1. 目的

企業で働く方や大学の研究者の方など、社会で活躍していらっしゃる方との対話を通して、自身の社会に関する認識を更新し、自分が将来どのような人間として、何をして社会と関わっていくのかについて考えを深める契機とする。

2. 対象生徒

1年 普通科 全員 203名

3. 実施日程（現時点での予定）

5,6月		協力母体への挨拶（高等学校コンソーシアム京都・中小企業家同友会・京都市わかもの就職支援センター）
7月		訪問先の検討（下旬までに）
8月		大学・研究機関の訪問先決定，中小企業家同友会協力事業所決定，学校独自開拓協力企業決定
9月		訪問先決定
10月	11, 12, 13 日 19 日 25, 26, 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（総合的な探究の時間） ・事前学習 1（LHR） ⇒ユースアントレプレナーシップ事業「起業家による講演」 ・事前学習 1（総合的な探究の時間） ⇒ユースアントレプレナーシップ事業「講演を受けてのワークショップ」 <p>ここまでのオリエンテーション・講演・ワークショップを受けて，年度当初に行った R-Cap も活用しながら，自分の行き先の希望を出す <u>(10月28日 金) 締め切り</u></p>
11月	8～17 日 22 日～	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 2（総合的な探究の時間） ⇒京都新聞社との合同授業（NIE） ・事前学習 3（総合的な探究の時間） ・事前学習 4（総合的な探究の時間）
12月	14 日～20 日 （午前授業 の 5 日間）	訪問開始（放課後）
1月		事後学習・振り返り（LHR）
2月		評価・総括

4. 実施内容

・オリエンテーション

自分たちが歩む未来について考える。

①15年後の自分の姿を想像してみる（自分は何をしたいと思うか，何をしていると思うか）

②「働く」とはどういうことかについて考える

⇒漠然とした将来へのイメージを持ち，起業家の講演や訪問を経験することで自分の社会への認識のアップデートをねらう

- ・事前学習 1（講演とワークショップを経験し、講師の方の社会のとらえ方と、そこでの活躍を知り、社会への認識を深める）

京都市のユースアントレプレナーシップ事業を活用し、若手起業家の方から講演とワークショップをいただく。生徒の身近な生活に課題を覚えている起業家の方の見方・考え方をすることで、社会のとらえ方をイメージする。

講演をいただく方

株式会社 taliki

原田 岳 様

- ・事前学習 2（インタビューの手法を学ぶことを通して、質問力を高める）
他者との関わりをさらに深める手法として「質問」を捉えている。京都新聞の方に取材のプロとしてインタビューの手法を学びながら質問力の向上を目指す。
- ・事前学習 3（10年後の社会の様相を予想し、そこでの自分の姿を具体化してみる）
10年後、社会はどうなっていて、その社会で自分はどうなっていたいのかを考えてみる。
実際に企業・大学・公共組織・研究機関を訪問し、自分の認識と社会人の方の認識のリアリティの差などを知る準備をする。
- ・事前学習 4（訪問先の調査を行い、質問を考える。）
訪問先について詳しく調べ、インタビューの手法を踏まえ、質問を考えていく。実際に訪問先の方と対話を行うための下調べをきちんと行う。
- ・企業・大学・公共組織・研究機関訪問（社会への認識の差を知りに行く）
自分の社会への認識と社会人の方の認識とのリアリティの差を知り、今後の将来を考える契機とする。

訪問日程：12月14日（水）～12月20日（火）の午後の時間帯

訪問人数：大学及び研究機関は10～20名程度、小中学校、幼稚園・保育園、企業等は3～5名程度を想定

訪問時間：約2時間から3時間を想定

実施内容：（大学様）・研究の意義や、研究を開始するに至る経緯

・大学生との対話 など

（企業様）・企業概要の説明、業務内容紹介

・従業員の方との対話

・質疑応答 など

協力機関・企業（①～⑨：教育機関 大学-中学校-小学校-幼稚園・保育園 ⑩～⑳：企業

㉑～㉓：行政 各50音順）※敬称略

- ①京都芸術大学 文明哲学研究所
- ②京都光華女子大学 健康科学部
- ③京都産業大学 生命科学部
- ④同志社大学 政策学部
- ⑤龍谷大学 政策学部
- ⑥京都市立八条中学校
- ⑦京都市立唐橋小学校
- ⑧吉祥院こども園
- ⑨くるみ幼稚園
- ⑩岡山工芸株式会社

- ⑪香老舗 松栄堂
- ⑫株式会社 IS スリッター
- ⑬株式会社ウエダ
- ⑭株式会社京都新聞社
- ⑮株式会社クーバル（就労継続支援 B 型 UTAU）
- ⑯株式会社 TOPS
- ⑰株式会社はてな
- ⑱株式会社ビクトリー自動車
- ⑲株式会社リーフパブリケーションズ
- ⑳株式会社ワコールホールディングス
- ㉑亀屋良長 株式会社
- ㉒京セラ株式会社
- ㉓京都信用金庫 上鳥羽支店
- ㉔三彩食品有限会社
- ㉕パナソニックデザイン京都
- ㉖ふふ京都
- ㉗m u i L a b 株式会社
- ㉘村田機械株式会社
- ㉙有限会社山田木工所
- ㉚公益社団法人京都市国際交流協会
- ㉛南区消防署・消防団
- ㉜南区役所

(6) 事後学習（活動全体の振り返り）

- ①振り返りシートに、できるだけ具体的に記入することで、訪問内容の整理・理解をおこなう。
- ②クラスメイトと経験を共有し話し合うことで社会に対する認識、見方・考え方を広げる。
⇒自分が今後どのように将来を考えていくのか、社会の中でどう生きていきたいのかについて考えをまとめ、今後の進路を考える契機とする。

令和4年度 未来デザインプログラム 総括

京都市立塔南高等学校
改革推進グループ（改革担当）

1. 未来デザインプログラムの目的

企業で働く方や大学の研究者の方など、社会で活躍してらっしゃる方との対話を通して、自身の社会に関する認識を更新し、自分が将来どのような人間として、何をして社会と関わっていくのかについて考えを深める契機とする。

2. 活動の内容・流れ

○オリエンテーション

- ・10年後の自分の姿を想像してみる（自分は何をしたいと思うか、何をしていると思うか）
- ・「働く」とはどういうことかについて考える

⇒自分たちが将来歩んでいく「社会」についての認識を確認し、「働く」という観点で、自分たちが将来どのように社会と関わっているのかをイメージすることで、社会について考えることをねらった。

○学習1

- ・「自分らしく社会を生きる」というテーマでの講演
- ・自身と社会を繋げるワークショップ

⇒強い意志を持って社会を歩む方の講演を聞くとともに、社会に対するちょっとしたモヤモヤ（「もっとこうなったらいいのに」という感覚）を突き詰めて、社会の構造について考えるワークショップを通して、社会とどのように関わっていきたいのかについて深く考えることをねらった。

○学習2

- ・NIE（Newspaper In Education）の活動の一環として、新聞の記事を書くために行っている取材の手法や、収集した情報のまとめ方の学習

⇒訪問先の方との関わりを楽しみ、学びを深めるための「質問」の仕方を学ぶことをねらった。

○学習3

- ・10年後の社会状況の予測を知り、訪問先の方は、10年後の社会をどのように捉え、自組織の課題をどのように捉えているかを予想する。

⇒訪問先の調査に加え、社会で活躍されている方はどのようなことを考えて業務にあたってらっしゃるのかを事前に考えておくことをねらった。

○学習4

- ・企業・大学・公共組織・研究機関訪問

⇒自分の社会への認識と社会人の方の認識とのリアリティの差を知り、今後の将来を考える契機とすることをねらった。

○振り返り

⇒異なる訪問先での活動やそこでの気づきを共有することで、学びを全体のものとするとともに、自己の学びについて深く振り返ることをねらった。

3. 生徒による活動へのアンケート結果

番号	質問項目	回答 (%)				
		(思う 5 ⇄ 1 思わない)				
		5	4	3	2	1
1	「チョコレートが届くまで」等のワークで行った、「働く」ことについて考えを深める授業は、自身の将来を考える上で役に立ちましたか。	37.5	45.8	12.5	2.1	2.1
2	「自分らしく生きるとは」をテーマにした講演は、自身の将来を考える上で役に立ちましたか。	38.5	37.5	17.7	5.2	1.0
3	新聞記者の方に来ていただいて行った「質問力」の授業は、様々な方との触れ合いを振り返り、役に立ちましたか。	47.9	49.0	3.1	0	0
4	統計資料などを活用した、10年後の社会を考える授業は、自身の将来を考える上で役に立ちましたか。	31.3	53.1	9.4	5.2	1.0
5	企業や教育機関・行政機関への訪問は、自身の将来を考える上で役に立ちましたか。	67.7	24.0	6.3	1.0	1.0
6	訪問を通して、有意義だったと思うことは何ですか。(複数回答可)	業務説明	見学体験	対話	質疑応答	その他
		19.8	31.3	44.8	12.5	1.0
7	「未来デザインプログラム」の活動を通して、学校の中だけでは得られない気づきや学びがありましたか。	65.6	29.2	4.2	1.0	0
8	「未来デザインプログラム」の活動を通して、自身の具体的な希望進路を考える上で、参考になる刺激や情報がありましたか。	33.3	50.0	12.5	4.2	0
9	「未来デザインプログラム」の活動を通して、様々な働き方や生き方があることについて、自分なりに考えを深めることができましたか。	47.9	46.9	4.2	1.0	0
10	「未来デザインプログラム」の活動を通して、働く意義や目的について、自分なりに考えを深めることができましたか。	42.7	49.0	6.3	2.1	0
11	「未来デザインプログラム」の活動を通して、学校生活での経験と将来とのつながりを実感することができましたか。	42.7	45.8	8.3	3.1	0
12	職業を選ぶ上で、自分の個性や能力を発揮して、興味や理想を実現することを重視したいと思いますか。	57.3	37.5	4.2	1.0	0
13	職業を選ぶ上で、自立した生計を営む収入を得ることを重視したいと思いますか。	44.8	42.7	10.4	2.1	0
14	職業を選ぶ上で、社会人としての義務と責任をもって社会に貢献することを重視したいと思いますか。	40.6	47.9	9.4	1.0	1.0
15	「未来デザインプログラム」の活動に取り組む前と比較して、将来について積極的に考えてみようと思いましたか。	47.9	44.8	7.3	0	0
16	「未来デザインプログラム」の活動を行って、よかったですか。	64.6	31.3	3.1	1.0	0

個別の生徒の気づき（抜粋）

- ・「働く」のは自分のためという意識が強かったけど、活動を終えて、人を支えることであるという側面を感じることができた。特に自分が訪問させていただいた企業さんでは、働きたい誰かのために何かを作ろうという想いを持つ人に肩を貸すような形で「人のために」という優しい気持ちが循環しているように思いました。人の多様性を認めたり、自分のものさしで物事を見ないといった社会との向き合い方が大切だと学ぶことができました。
- ・未来デザインプログラムの授業は始まる前は、働いている人たちや裏側のことを知る機会もなく、考えようと思ったこともなかったので、実際に訪問などに言ってみて、自分たちが知らないところでたくさんの方が関わって協力してもらっているおかげで当たり前で過ぎてしまっているんだなと思いました。また、それを知ったので、日ごろの小さなことにも感謝して生きようと思いました。

総括

○目的の達成度

以下の2点についてアンケート等を参考に達成度を確認していく。

①「自身の社会に関する認識を更新」する

②「自分が将来どのような人間として、何をして社会と関わっていくのかについて考えを深める契機とする」

①については、「社会」に対する生徒の記述式の振り返り欄に「社会の複雑性や多層性」や「『働く』ということや働き方の捉え方」への気づきがうかがえる記述が多く見られたこと、アンケート（7, 8, 9, 10）における結果において好意的な意見が多かったことを踏まえ、おおむね達成できていると判断して良いと考える。

②についても、記述式の振り返り欄の「今後の決意」を語る部分に、具体的に今後の自身の高校生活への意気込みを記述している生徒が多く見られたこと、アンケート（11, 15 など）への好意的な回答が多かったことを踏まえ、おおむね達成できていると見て良いと考える。

しかし、記述したものだけでなく、実際に生徒の行動に変容が起きているかについても、今後検討していく必要がある。また、目的の抽象度が高く、その達成度についても見取りが曖昧になってしまっている印象が否めない。生徒たちの様子を細かく観察し、彼らに必要なのかを明確にしながら、目的の練り直しについても必要であると考えます。

○諸活動について

今年度はオリエンテーションから振り返りに至るまでの諸活動に例年よりも時間をかけた。アンケート結果によると、実際の訪問が最も生徒たちにとって印象的だったように見えるが、その結果にどれほど学習1～3が関わっているかが見えづらい結果となった。次年度以降は、活動全体の目的からつながる各活動の吟味、またその活動のねらいが達成されているかの評価軸を適切に設定する必要がある。

また、アンケートだけでなく、生徒の具体的な姿がどのように変容したかについて見取っていく必要がある。そのためにも、どのような活動を行っているのかを学校全体に周知し、チームとして生徒の変容を見ていくシステム・組織を意識したい。

4. 訪問先の方による活動（訪問）のアンケート結果

番号	質問項目	ご回答（回答数：25）		
		適切	どちらとも言えない	不適切
1	実施に至るまでの学校からの連絡・調整、説明は適切でしたか。	適切	どちらとも言えない	不適切
		25	0	0
2	生徒の訪問時のマナー（服装・挨拶・言葉遣い等）は適切でしたか。	適切	どちらとも言えない	不適切
		22	3	0
3	生徒の意欲や態度はいかがでしたか。	良い	普通	悪い
		16	9	0
4	受入れしていただいたお立場から、生徒に対する要望は何でしょうか。（複数回答可）	訪問目的等の事前学習	訪問先の下調べ	積極的な質疑
		9	4	18
		訪問後の振り返り	その他	
		8	1	
5	生徒の訪問を受け入れていただいている理由は何でしょうか。（複数回答可）	社会貢献	貴組織のPR	新卒採用への期待
		24	5	9
		職場の活性化	その他	
		4	1	
6	このような取り組みは高校生にとって必要だと思えますか。	必要	どちらとも言えない	不必要
		25	0	0
7	受入れしていただいたお立場から、学校に対する要望は何でしょうか。（複数回答可）	生事前指導の充実	生徒の目的意識の向上	事後指導の充実
		3	17	9
		その他		
		3		
8	次年度以降も、この取組に関してご協力いただけますか。	可	検討する	不可
		17	8	0

訪問先の方からの個別のご意見（抜粋）

- ・当日来社頂きました生徒の皆さんの初めの挨拶が非常に素晴らしく、非常に好感を持って対話に入ることが出来ました。お互いに緊張した空気でしたが、その中でも積極的に質問があり、よく勉強してきていらっしたのだなと感心しました。
- ・事前に生徒の自己紹介（興味・関心があること、将来の夢など）が分かると、よりお話ししやすいかと思えました。また当日、生徒からの質問や感想などの発言があると嬉しいです。せっかく少人数の場で、話しやすい雰囲気なのではと思います。職員も時間をかけて準備をしておりますので、もう少し生徒との相互の意見交換などがあると、活動の意義も深まるかと思えます。
- ・落ち着いた様子で高校生らしく、マナーよく見学されていて感心しました。ただ、職業・職種に対する関心や、訪問への目的意識は、1年生ということもあるのか高くはなかったのではないかと感じます。より有意義な訪問にするために改善の余地があるように思います。先日来られた生徒さんの事後指導が充実して、より意

識が向上されることを願っています。

総括

生徒のアンケートや振り返りの結果を見ていくと、「社会の複雑性・多様性を知るきっかけとなった」という意見や、「自身の興味・関心を探る動機づけとなった」という意見が多く見られたことから、未来デザインプログラムの目的であった、社会への認識を更新することと、自分が社会とどのように関わっていくかを考える契機とすることについては、ある程度達成できていると思われる。

しかし、訪問先の方からのご意見として多くいただいた通り、訪問時の目的意識の低さ、自発的な質問や意見のなさなど、活動をより意義深くする課題点も多い。

次年度は実施時期を9月となることに加え、今までよりも「社会を知り、自分自身について深く考える機会」としたいと考えているため、今年度の課題を明確にし、次年度へつなげていきたいと考えている。

令和4年度のティーチングアシスタント(TA)の活用について

○ 業務内容

総合的な探究の時間において、各クラスでの生徒の活動に伴奏し、探究活動の質を高め、深い学びへ導く指導の補助を担う。具体的には、グループワーク時のファシリテーターや論文作成の指導を行う。

○ 成果と課題

令和3年度は、TA が1人しかおらず、まさに補助の役割しか担えなかったが、今年度は年間を通して20人以上運用することができ、実際に教員に変わって生徒のグループワークを活性化させるなど、教員に近い指導を行った。教員側にTAの活用のノウハウとTAの必要性を浸透させられた。また当然生徒の学習活動においては、対話する相手やアドバイスをもらえる相手が増え、活動が停滞することが減り、より活発な活動や、より深まりのある思考が進むようになった。

一方で、取り組みによってはTAの役割が一時的になくなってしまいう場面もあり、常時勤務してもらうのではなく、必要な時に必要な人数の出動が今後必要である。

また、採用においては、TAの学年を考慮する必要がある。下級生では自身の授業も多く、また、自身が研究を進めているとも言い難い。一方で、上級生では、生徒への指導が効果的に行っていた場面が多くみられたが、応募が少ない。今後大学院生のTAの募集に力を入れる必要がある。

○ R4年度TA活動実績

	人数	時間
6月	12	38
7月	12	23
8月	9	13
9月	16	64
10月	16	62
11月	17	108
12月	14	45
1月	17	87
2月	16	130
3月	6	19